

岡山県生涯学習センター機能強化基本計画等検討委員会第1回会議 議事概要

日時 平成23年5月13日(金)
14:00~16:30
場所 旧県立児童会館2階会議室

- 1 開 会
- 2 委員及び事務局員自己紹介
- 3 検討委員会規程について
- 4 正副委員長の選出
- 5 議 事
 - (1) 議事運営について
 - (2) 経過説明及び今後のスケジュールについて
 - (3) 基本計画構成案について
 - (4) その他
- 6 閉 会

< 議事概要 >

基本計画（構成案）

事務局から説明

- | | |
|-----|---|
| 委 員 | 本日の会議で具体的な中身まで検討するのか。 |
| 事務局 | 本日の会議で基本計画の中身まで示すことは困難と思われるので、本日の意見を踏まえた上で、2回目以降の会議で具体的な基本計画の素案を事務局から提示し、御議論いただきたいと考えている。 |
| 委 員 | 県立児童会館閉館後の利活用にかかる緊急課題専門プロジェクトチーム（以下「PT」という。）報告に基本的なことは書かれていると思われるので、この中身を当委員会で検討していくものと理解してよいか。 |
| 事務局 | 基本計画の策定作業としては、PT報告を踏まえ、これに肉付けをしていくイメージだ。 |

基本的な役割

事務局から説明

- | | |
|-----|--|
| 事務局 | 欠席の委員から事前に頂いた御意見を紹介する。宇宙科学だけでなく、岡山の誇れるものづくりや先端技術にも力を入れるべきだ。子どもが自然に接することは重要であり、その観点を反映させたものにすべきだ。 |
| 委 員 | 県施設であることから、民間のように、ただ多くの県民が来ればいいというわけではない。全県下に影響を及ぼすという広域性を考慮した上で、多くの人が利用するにはどうしていけばよいかを検討していくことが必要だ。生涯学習の推進に当たって、県が実施したことに市町村が続くという先見性もある。こういった観点からも意見をお願いしたい。 |

- 委員 資料には、一つの博物館ないし科学館が造られる場合の基本施策が書かれているが、こういった言葉は他の施設でも使われている。この施設を見学して思ったことだが、ここは生涯学習の一環としてやるという制約、この広くない建物を活用するという制約の中で、何を大事にやっていくかというところが見えない。スペースがない中、展示についてはどうなのか。すぐ陳腐化、時代遅れとなるのではないか。流動性のある施設にして、その時々状況に対応する県全体の知能部、司令塔のような形になるのがよいのではないか。また、体験重視なのか、ネットワーク組織重視なのか、プラネタリウム以外をどういった思想でやるのかというところを議論しないといけないのではないか。何を売りにしてやっていくのか、将来的に県民が飽きない施設としてどういったことをやっていくのかを考えていかななくてはならない。
- 委員 指導者を養成するのか、小学生にたくさん来てもらうのかで、求められる機能の容が全然違ってくる。プラネタリウムは、子どもは喜ぶが、他の施設にもある。ここに来る意味をどう捉え、その両方を狙っていくのか。さらに、小学校への出前講座ともなると話が広がり過ぎるが、何をメインとして、この施設が活用されるのか見えない。
- 委員 施設の大きさも予算も限られる中、何でもするのは難しいので、何かに絞り込む必要があると思われ、それは、委員の責任で決定するという共通認識を共有したい。私としては、人的なリソースを集約する形のもので出来たらよいと思う。
- 委員 科学という言葉があるが、自然科学もあれば生命科学、宇宙科学もあり、どの部分をテーマにするのかが見えない。施設の規模からしても、どこか絞らないといけないのではないか。岡山県の特長、強みをどう結び付けていくのかということも大事だ。
- 委員 スペースの問題もあるが、いつ行っても何か新しいものがあることがリピーターにつながる。限られた施設でプログラムを展開していくとしたら、何月にはこういったことをしているとか示すことで、例えば、1回目に自然体験、その次はものづくり、そしてプラネタリウムといったふうに、計画的にそれらを目指して来てくれるのではないか。
- 委員 この施設には、元々の児童会館として積み重ねてきた実績がある。プラネタリウムの機能は継続されるが、関係法や管理者が変わることにより、今まで児童会館がやってきたものが全くゼロになってしまって新しいものをつくらうとしているのか。県立の児童会館として、広域性を生かしてやってきたものがあるのではないか。また、プラネタリウム以外のところで、どの部分を継続していくのか。キャパシティや人的資源の限界がある中で、何を残して、何を新しくしていくのか、児童会館が何をやってきたのかを知りたい。また、知の発信やネットワークづくりをやって来ていない中で、新たに何かしようとしているのか、科学館ではなくても他の児童館とのネットワークなど何らかのものがあったのかも分からない。
- 事務局 委員の共通の思いとしては、こういった形で重点的にこの施設の運営を図っていくのかだろうと思う。PT報告の児童会館の概要にあるとおり、県立児童会館は、児童健全育成施設として運営されてきた。主な事業として、児童健全育成事業の

実施、県内児童館職員等を対象とした研修、児童館相互のネットワークづくり等がある。児童健全育成事業の中身として、プラネタリウムの運営もさることながら、例えば、子ども天文教室や実技・実験工作等、子どもたちが参加するわくわく科学教室を実施してきた。これらは科学に関するもので、場合によってはこれらのノウハウを研究した上で、今後の運営につなげていくことが可能かと思われる。一方で、科学から離れた児童健全育成事業として、例えば、囲碁・将棋を楽しむ会の中で、大学生やボランティアに協力してもらいながら、子どもたちの遊びを提供してきたこと、あるいは、中国学園大学の協力によるピアノサークルライブなどの事業があった。児童健全育成事業を全般的に継続していくことは、財政構造改革の一環として県立児童会館の役割は終わったとされている状況から難しいが、御指摘のとおり、その中には科学というテーマでノウハウを活用していける部分もあり、そこを意識しつつ、新たな事業の展開を検討していく必要がある。その上で委員の皆様へのお答えとして、事務局から示した検討事項が大きなテーマとなってくる。展示物が主体なのか、ネットワークづくりが主体なのか、その御指摘も含めて、全体を通した事務局の考え方を申し上げますと、大きなプラネタリウムを有するライフパーク倉敷内の倉敷科学センターには、非常に大型の展示施設であり、倉敷市外の生徒も利用しているが、同様の施設を岡山市につくる意味があるのか、という意見もある。倉敷科学センターのような展示を中心とした科学館は難しいと思っており、同センターとのさび分けもさることながら、この施設の狭さを考えると整備は出来ない。こういった状況の中で、大事にしたいと思っているのはネットワークづくりであり、岡山の技術や科学を結集したネットワークをつくっていきたいと考えている。PT報告の資料1のイメージ図の中で、新たな協働モデルの構築を目指し、産学官民のネットワークを構築し、ソフトパワーを結集・活用していくとあるように、大型の展示物を置いていくのではなく、様々な研究機関や大学、社会教育施設やボランティア、NPO、これら県内にある知恵やコンテンツ、人材をこの施設の中に結集・活用していったらどうかと考えている。全てを行政が用意するのではなく、企業や大学等が持っている資源を活用しながらこの施設で子どもたちや親の学び、世代を超えたつながりを提供するイメージを持っている。この後の説明では、いろいろなものを詰め込んでいるアイデアになっているが、その中でどの部分を重点化していくかについても、委員の皆様の見解を頂きたい。

委員 岡山のものづくりには特殊な技術があるが、このスペースで自然科学も天文科学も全て展示して満足させることが出来るのかと疑問に思っている。この中から子どもたちに見に来てもらう、岡山ってこんなところなんだな、優れたところなんだなと誇りに思えるような展示物になった方がよいのではないかと。どこの県の施設でも一般的な科学の展示はある。

事務局 いろいろな科学の分野、企業の中でも様々な技術があるが、それらを全て一斉にとは考えていない。施設自体の制約がある中で、期間を設定しながらバリエーションを示し、飽きさせない工夫をすることで、科学の広がりを感じてもらえるよう検討していきたい。

- 委員 2階はプラネタリウム、1階は生物では統一性がない。宇宙科学がメインであるという軸足は置いていかねばならない。
- 委員 晴れの国岡山なので空は注目すべきであり、専門機関とタイアップできれば、岡山独特のプラネタリウムが考えられる。
- 委員 今後の検討で取捨選択していく中で、判断基準の共通認識を持っておく必要があるのではないか。また、そうしたところを意識しておいた方がよい。

基本的な機能

事務局及び提案業者から説明

- 委員 業者説明に事務局から補足はがあればどうぞ。
- 事務局 プラネタリウムは、生涯学習施設としての機能を持たせていく必要があり、子どもだけでなく、親子、世代を超えて利用してもらえらるものにと考えている。平日の利用は子どもたちが中心で、学校教育との連携において、遠足や社会見学、理科の授業で活用していただきたいと考えている。そういった形で、平日は子どもたち、休日は一般の人を対象としたプログラムの提供が出来ればと思っている。この施設の一番の特長はドームであり、科学の中でも宇宙、天文を最優先に考えていくべきものと考えている。絞り込みの中での判断基準をいう意見があったが、一つの統一的な基準によってということではなくて、各委員の意見の中での重点事項を踏まえて、絞り込みに反映していきたいと考えており、皆様の考え方を聞かせていただければと思う。

< 1階 >

- 委員 小学校で平日に利用するとしたら、遠足や理科の学習で、県北の場合、バスによる利用となるが、業社提案は、子どもたちにとって大変にわくわくさせられる楽しいスペースになっている。こういうところに来て、子どもたちが体験するということは、新しい学習指導要領にも出ているが、学校ではなかなか出来ないことなので、ここにきて体験できるというメリット、良さ、魅力が感じられる。
- 委員 自分も子どものとき、ここへ来ており、また、子どもを連れて来るなどして、40年利用してきた。また、NPOとしても生涯学習センターに関わってきた。生涯学習センターは出来て短いが、倉敷科学センターとどういうふうに差別化するのが見えてこない。倉敷をすごく縮小した、ちゃちなものという気がしている。倉敷科学センターは、全県から利用されていて、スペースも広い。そこと同じようなことをしたのでは、子どもたちの感動もなくなってくる。テーマを絞り込むべきと思われる。岡山のものづくりとか技術が身近に分かるようなものにすればよいのではないか。この内容だけをみれば、あまりにも広すぎて、どこに岡山らしさが見えているのか分からない。そのあたりをハードとソフトに分けて考えた方がいいのではないか。
- 委員 この施設は、大学と近いというメリットがある。ここだけでなく、時と場合によっては出ていく、あるいは、天文台の見学などにより、それなりの効果が出てく

るのではないか。小さなところで実施する科学教室もよいが、そのような取組は他にも多くのところでやっているの、それに加えてどこかとコラボすることで、他では見れないものが見れるようなところとうまく連携出来ればよいと思う。そうすることで知的なセンターになってほしい。連携は相手があることでもあり、これから皆の知恵で考えていけばよいのではないだろうか。

事務局 倉敷科学センターとのさび分けについて、先般の県教育委員会視察の時にも、同様の指摘があった。同施設のミニチュア版を作っても意味がない。その御指摘を踏まえて、この施設の優位性、特長をどう形作っていくか、この施設がこの地域に立地していることからの特長、強みを最大限に生かしていく必要がある。岡山大学、岡山理科大学、岡山工業高校が集積しているので、それらと連携した知の発信も出来ると考えている。倉敷科学センターのような展示を中心とした施設というよりは、人材やコンテンツを活用したソフト中心の方向性が考えられる。

委員 高校も、小学校や公民館から声が掛かり出かけていくが、授業の中に課題研究もあり、多くのテーマでいろいろなものを展示するというので、一か月間こういったものを作ってという依頼があれば、協力できるのではないかと思う。利用する子どもたちの安全を前提として、年齢層のターゲットを絞ればよいのではないか。一か月経ったら別の学校という具合に、お手伝いできることがある。

委員 倉敷科学センターとの違いをネットワーク性に求めようという意見が委員から出ている。現実の問題として、今回提案のものが全部この中に納まるのか。

事務局 盛り込むだけなら出来るが、平日の学校利用を考えた場合、2階のサイエンスドームは3学級収容可能だが、1階には多くの設備がある中で、果たしてそれが可能なかどうか。平日利用、学校利用を踏まえた上で、1階のスペースの活用法の絞り込みを考えなければならない。特に、科学の体験・交流部分に焦点を当てる可能性は考えられるのではないかと思う。

< 2階 >

委員 プラネタリウム投影機には、光学式とデジタル式がある。金額面のことはあるが、光学式とデジタル式併用のハイブリッド式を導入してはという説明だった。ぜひハイブリッド式でお願いしたいと思う。

委員 プラネタリウムは、多くのメーカーから出ているが、金額の差は知っているか。
業者 金額については、下は数千万円から、上は億単位までである。オプションや仕様の関係もあり、ピンキリだ。投影できる星の数は、主に天の川の星の数に違いがある。目に見えるような一般的な星にはさほど差はない。メーカーとしては、五藤光学研究所、大平技研などがある。

委員 デジタル式プラネタリウムの星像の大きさは、どれくらいに見えるのか。星らしく見えるのか、それとも、ぼやけて見えるのか。

業者 採用するデジタルプロジェクターによって違ってくる。投影解像度が、4,000ピクセル×4,000ピクセル以上であれば、光学式と見かけ上は変わらない。コントラスト比が、10,000:1以上のものを使わないと、光学式との併用

には適さないと考えられている。それを満たすメーカーは、世界でも2社しかないが、値段はほぼ横並びだ。

委員 サイエンスドームの周囲は、実際には、耐震化の関係でほとんど使えないということなのか。

事務局 耐震構造物については、現段階ではイメージとして作っているものなので、確定したものではなく、今後精査していく。

管理運営計画

事務局から説明

事務局 欠席の委員から頂いた御意見を紹介する。地域や団体の取組や成果を発表する機会を設けるべきだ。周辺施設との取組の連携強化を図るべきだ。施設の運営には、経営者感覚を持つべきだ。

事務局 東日本大震災の復興に向けて、全国的な対応をしている中で、こういった施設整備を推進していくという意味では、しっかりと利用の促進を図られるような施設にしていかなければ意味がない。ただ単にハードとして整備をするのではなく、しっかりとソフトを充実させ、人が利用するような施設にするべきだ。経営者感覚を持って、しっかりと費用に対して効果を発揮する施設として検討しなければならないと考えている。

委員 旧県立児童会館には、今、人はいないのか。

事務局 元々管理者としての職員であり、今はいない。

委員 この建物を新しくオープンするときに、ここを維持していくときの職員はどうなるのか、生涯学習センター職員が増えていくという理解でよいか。

事務局 どういった体制でやっていくかが大きな課題であり、1回目の会議での議論は難しいと考え、簡単に提示している。

現在の生涯学習センターは、県の広域性を発揮するため、基本的に直営でやっているが、一部清掃や警備、会議室の予約受付は民間に委託している。

現在の生涯学習センターの状況との整合性、一体性を考えながら、また、プラネタリウムの運営は専門性が高く、現在の職員には、そういった知識を有する職員はいない点など、様々なことを総合的に検討していかなければならないので、この部分は今後の検討課題だ。

委員 プラネタリウムについては、確かに高い専門性が必要だ。一方で、県の施設としてネットワークを作っていくことを考えていくと、口で言うのは簡単だが、核となる、余程高い能力をもったコーディネーターがいないと作れない。実際、なかなかネットワークが作れないのには、コーディネーターの力量の問題がある。その部分に関しては、高い能力をもったコーディネーターをしっかりと配置していくことを考えてもらいたい。

委員 連携という言葉で県が逃げないように、必ずそのコーディネーターをバックアップする体制がないと困る。過去の3セクは失敗だと思っている。あのようにならないように最終的な責任は県が持つことだ。

事務局 県の施設としてセンターの一部としての機能ということなので、県としての責任

委員 はしっかり果たしていかなければならないと考えている。
現在の県生涯学習センターには、科学に関する専門家はいない。その辺りは委員の皆さんが心配しているところだ。今回の議論を事務局でまとめ、次回の会議にて取り上げてもらいたい。